



コロナ差別



～ 今こそ思いやりの心を持って～
戦う相手は人ではなくウイルスです！

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、誤解や偏見により、感染者や医療関係者、感染者が確認された事業者及びその家族に対して誹謗・中傷やいじめ、差別的な対応といった人権侵害が増加しています。また、こうした行動は人々の不安をあまり、感染が疑われる症状が出て、受診をためらい、結果的に感染が拡大するという負の連鎖につながります。

新型コロナウイルス感染症は、誰にでも感染リスクがあります。不当な差別や偏見、いじめ、SNSでの心ない書き込みなどは決して許されません。

人権侵害につながることをないよう、公的機関の発信する正確な情報に基づいた冷静な行動をお願いいたします。第二次、第三次の被害を出さない、人を思いやる心を持ちましょう。

こんな発言聞きますか？

Aさん感染したんだって。
どうせ夜遊びしてて
感染したんじゃないかな？

せきは、喘息のせいだって
言うけど、絶対コロナに
決まってる。休めばいいのに。

府外ナンバーの方は
一切、この施設のご利用を
お控えください。



人権推進室人権相談窓口では、新型コロナウイルスによる中傷被害、差別などに関する相談に面談でも電話でも対応します。いつでもご利用ください。

人権推進室／電話：0773-24-7021

時間：午前8時30分から午後5時15分（土・日曜日、休日を除く）

ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは

法令上の定義はありませんが、家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている



日本語が第一言語でない家族や障害のある家族のために通訳をしている

全国調査結果から(令和2年12月～令和3年1月実施)

厚生労働省が、全国の公立中学2年生と公立高校2年生(全日制)を対象にアンケートを実施し、中学2年生で5.7%(17人に1人)、高校2年生で4.1%(24人に1人)が、世話をしている家族が「いる」と回答しています。さらに、その頻度は「ほぼ毎日」が最も多く中学生45.1%、高校生47.6%、「平日1日当たりの世話を費やす時間」では1日平均中学生4時間、高校生3.8時間となり、7時間以上という回答も1割を超える結果となっています。

また、家族の世話について相談した経験が「ある」と答えた人が2割強に対して、「ない」が6割強と多く、その理由として「誰かに相談するほどの悩みではない」「相談しても状況が変わるとは思えない」といった回答が多い結果となっています。

家事や介護などの負担が大きくなると、右表のような課題が生じ、結果…

家族の世話をしているために、やりたいけれどできていないこと

(%)	中学2年	高校2年
宿題をする時間や勉強する時間がとれない	16.0	13.0
睡眠が十分にとれない	8.5	11.1
友人と遊ぶことができない	8.5	11.4
自分の時間がとれない	20.1	16.6

「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」アンケート結果から

成績不振、同年代とのコミュニケーション不足、社会からの孤立、希望進路の選択肢が狭まるなど、子どもが望む将来に大きく影響し、さらに次の世代へと繰り返される可能性が非常に高くなります。

家族のケアが「家庭内の問題」ではなく、偏見なく相談できる人間関係・環境づくりが必要とされます。

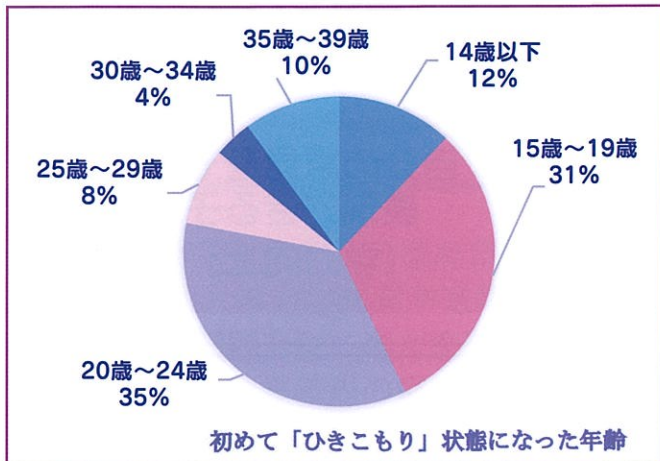
相談窓口

- ◆**児童相談所相談専用ダイヤル**／子どもの健やかな成長を願って、ともに考え問題を解決していく専門機関
電話番号：0570-783-189
受付時間：24時間受付(年中無休) ※通話料は有料
- ◆**24時間子供SOSダイヤル(文部科学省)**／いじめやその他の子どものSOS全般について相談できる
電話番号：0120-0-78310
受付時間：24時間受付(年中無休) ※通話料無料
- ◆**子どもの人権110番(法務省)**／いじめや虐待など子どもの人権問題に関する専用相談電話
電話番号：0120-007-110
受付時間：平日8:30～17:15 ※通話料無料

ひきこもり 実態調査結果より

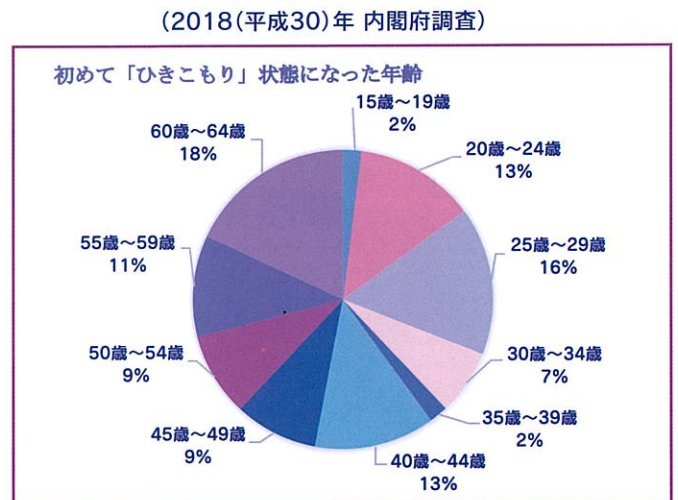
内閣府によると「ひきこもり」とは、仕事や通学などをしていない人のうち、コンビニや趣味以外では外に出ず、家族以外とほとんど会話していない人と定義づけています。2015(平成27)年、内閣府による全国無作為抽出5,000人(満15歳～満39歳)と同居する成人を対象に「ひきこもり」の実態調査が行われ、その結果、満15歳から満39歳までの「ひきこもり者数」の推計が54万1,000人と発表されました。その中で、「初めてひきこもり状態になった年齢」の結果を見ると、左記のグラフのように15歳～24歳までが全体の6割を超える結果となりました。

その原因として、「不登校(小・中・高)」「職場になじめなかった」「就職活動や人間関係がうまくいかなかった」等が主な理由でした。



(2015(平成27)年 内閣府調査)

内閣府はその後、2018(平成30)年に初めて全国無作為抽出5,000人(満40歳～満64歳)とその同居する成人を対象に調査を行い、満40歳から満64歳までの「ひきこもり者数」の推計を61万3,000人と発表しました。また、その中で「初めてひきこもり状態になった年齢」の結果をみると、右記のグラフのように35歳～39歳が少なくなっていますが、ほぼ全年齢層に広がっていて、偏りが少ないというものでした。理由としては、「退職したこと」「人間関係がうまくいかない」と答えた人が多かったようです。また、この調査によって専業主婦や家事手伝いで「ひきこもり」状態の人がいることや「ひきこもり」状態になって7年以上の人が半数近くいることが明らかになりました。「ひきこもり」の高齢化、長期化は深刻化しています。その大きな原因として、外部はおろか家族にさえも固く心を閉ざしている人が非常に多いこと、また外部に知られたくないという気持ち当事者はもちろん、家族にもあり、そのため支援を断り長期化するケースが考えられます。



(2018(平成30)年 内閣府調査)

今後の支援のあり方



支援のあり方は、当事者やその家族の思いをしっかりと理解した上で進めなければなりません。経済的自立こそが何よりも重要という観点から、就労支援に終始することは、当事者にとって非常に高いハードルとなります。「働くこと」も大切ですが、何よりも当事者が安心できる居場所づくりがまず必要ではないでしょうか。また高齢の親と「ひきこもり」の子どもがいる家庭の「8050問題」という新しい社会問題もあり、その生きづらさを外部にはっきり言える環境(仕組み)づくりも重要です。

電話相談：ひきこもり相談専用電話
075-531-5255
(月～金 午前9:00～午後4:00)

来所相談：北部脱ひきこもり支援センター北部サテライト
(福知山総合庁舎内 第1,3水曜日
上記の専用電話で要予約)

六人部小学校の人権教育

—— 学校教育目標 ——

自分のために 人のために 社会のために 共に幸せを生きる人材の育成

—— めざす児童の姿 ——

元気にあいさつが
できる子
(心身共に健康)

最後まで粘り強く
頑張る子
(たくましさ)

自分の意見を持ち
表現できる子
(学力向上)

学力の向上と
進路の保障

- 全国学力・学習状況調査、
学力診断テスト等の活用
- 昼学習「スキルタイム」
- 授業研究



- 人権学習の公開
(家庭・地域・中学校との連携)
- 人権集会
- 教職員による読み聞かせ

人権学習の
充実

人権尊重の
環境づくり

- あったかハート郵便の取組
- ソーシャルスキルトレーニング
- 異年齢集団「なかよし班」活動
- PTA人権講演会



上川回小学校の人権教育

学校教育目標

夢を持ち 心豊かで たくましく生きる子の育成

人権教育目標

- 教育活動全体に人権教育を位置付け、児童の実態を的確に把握して、教育の機会均等を図り、学力の充実や進路保障に努める。
- 同和問題をはじめとする様々な人権問題についての正しい理解や認識の基礎と互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する態度や実践力を培う。



かしこく

- 学力向上の手立ての工夫
- 基礎的な学力の定着
- ブロックでの校種間連携
- ICT機器の活用
- 漢字・計算チャレンジ



認め
つながり
高め合う

やさしく

- 異年齢集団ひよどり班活動
- 人権旬間・人権集会
- 系統的な人権学習
- 大好きカードの取組
- OPTA人権講演会・人権研修



たくましく

- 学校運営協議会との連携
- 保護者・地域への啓発
- 読み語り劇場
- ひよどりマイフレンド
- いい日あいさつデー
- 朝マラソン・朝なわとび





「SDGs」最近よく見かける文字です。

「エスディーゼズ」と読みます。

「持続可能な開発目標」と訳されており、気候変動や自然災害、経済格差や紛争等、世界を取り巻く課題を解決するために、2015年の国連サミットにおいて採択されたものです。

「誰ひとり取り残さない」という理念のもと、国際社会全体が2030年までの目標達成をめざして取り組む17の目標(次頁上)が設定

されています。「持続可能」とは地球や社会の環境が将来にわたって維持されることを意味しています。

例えば、ガソリン車はいつかなくなる石油燃料を使用しており、CO₂を排出することにより地球環境を悪化させるもので「持続可能」とは言えません。ガソリン車を減らして、他のエネルギーで走る車の開発に力を入れることが「持続可能な開発」になるわけです。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

持続可能な開発目標



例えば、次頁にあるSDGs17の目標のうち14番「海の豊かさを守ろう」を見てみましょう。2050年には海に流出しているプラスチックごみの量が海に住む魚の量と同じになると言われています。プラスチックは軽くて丈夫で加工がしやすく耐水性もあって、とても便利で安価な素材です。ところが、世界の海には毎年約800万トンのプラスチックごみが流出しており、この量はジャンボジェット機5万機分とほぼ同じ重量とのことです。日本は約2~6万トン流出しています(環境省)。

しかし、なぜそれほど量のプラスチックごみが海に流出しているのでしょうか。海に遊びに来た人たちが捨てたごみ、漁業で使われなくなったプラスチック製の網、レジャーで使用した釣り糸、また路上に捨てられ、それが風や雨によって排水溝から川へ、川から海へ運ばれたごみ等。

世界中でこのようなことが起きた結果、信じられないほどのごみが海に集まっているわけです。特にプラスチックごみは固く丈夫で、完全に消滅することはないと言われています。そのプラスチックごみが海の中を浮遊する中で、それに海洋生物や海鳥が絡まったり、細くなったもの(5mm以下をマイクロプラスチックという)を誤って摂取することで、多くの生物が傷ついたり死んだりしています。世界では、1羽の海鳥の死骸から約200~300片のマイクロプラスチックごみが見つかったという報告もあります。

「自分ごと」として考えよう

日本は1人当たりのプラスチックごみの発生量が、アメリカに次いで世界第2位です(国連環境計画調査)。

この状況を改善するため日本政府や関係機関、地方自治

体では、物やサービスの過剰提供はしないという取組が、また海洋に流出しても影響や負担が少ない素材の研究・開発等が進められています。スーパーのレジ袋を完全に廃止した自治体もあります。そのような中、プラスチック製品を日々利用する私たちが、次の「3つのR」を「自分ごと」として意識し行動することは、SDGs14番「海の豊かさを守ろう」の目標達成に大きく貢献することになるのです。



リデュース
Reduce : マイバックやマイ箸・マイスプーンの持参によるレジ袋や使い捨て食器の削減。

リユース
Reuse : 詰め替えの使用によるボトルの再利用と廃棄ボトルの削減(繰り返し使う)。

リサイクル
Recycle : プラスチックを分別回収し、原料として利用(再利用する)。

SDGsは世界の共通目標です(17の目標)



福知山市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

人権と平和に関する 標語の募集

- 作品内容：人権と平和に関するもの。
- 規 格：応募様式は自由。
作品には住所・氏名を記入してください。
標語は1人3点以内。
- 応募期限：令和3年9月30日(木)
- 応 募：本誌の印刷ハガキ(右紙)をお使いください。
- そ の 他：応募者への記念品はありません。

★ 育てよう 優しい気持ち 家庭から
★ 噂より 思いやりを 広めたい
★ 紡ぎ合う 優しい心で 友達の輪
★ 伝えよう 親しき中にも ありがとう
★ コロナ禍で 支え合うのは 人と人
(令和2年度保護者作品より)

本誌発紙「That's Right!第28号」を読んでみて、感じたご感想・ご意見をお聞かせください。また、標語応募や人権について感じられることがあれば、ご記入ください。



ご意見・ご感想・標語など

ありがとうございました。よろしければ、情報をお聞かせください。



〒 _____
ご住所

お名前

いただいた情報は、福知山市個人情報保護条例に基づき、適切に処理します。

…… 啓発ビデオ(DVD)のご案内 ……

福知山市地域振興部人権推進室では、みなさんが職場や地域で自主的な人権学習をすすめていただくための啓発教材(ビデオ・DVD)の貸出をしています。さまざまな人権問題をテーマとした教材を用意していますので、ぜひご活用ください。

今回は2本のDVDを御紹介します。

★タイトル『サラーマット ～あなたの言葉で～』(DVD 36分)《令和元年製作》

企画のねらいとあらすじ

訪日外国人の増加や、改正出入国管理法の施行など外国の人々と接する機会が増え、職場や地域で共に生きる時代になっています。一方で、文化、言語、習慣などの「違い」や偏見から、外国人が増えることに抵抗を感じている人も少なくありません。また、スマートフォンの急速な普及によって、SNS内でのいじめなどが深刻化し、社会問題となっています。

この作品の主人公の珠美は新しく職場に来たフィリピン人のミランダに対し、様々な「違い」を「壁」と捉え面倒な存在と感じてしまいます。しかし、自分とは異なる文化や考え方をもつミランダとの対立や交流を通して珠美は新たな視点に気づかされ、「違い」は様々な問題解決の糸口になることも学びます。



63円切手
をお貼り
ください

6 2 0 0 0 3 5

福知山市字内記100
福知山市役所内

福知山市地域振興部人権推進室 行

★タイトル『カンパニユラの夢』 (DVD 36分)《令和2年製作》

企画のねらいとあらすじ

近年、主に「80代」の高齢の親が「50代」のひきこもりが長期化した子を支えている家庭が増加しています。「8050問題」とは、こうした家庭が地域社会との接点を失い、親子ともども生活が困窮するなどの課題を抱え、将来への展望が見いだせない超高齢化社会における新たな社会問題のことです。

主人公の岸本麻帆はあることをきっかけに「ひきこもり」は誰にでも起こり得ることだと気づきます。一方、20年以上引きこもり状態にある谷口誠一とその両親は問題が長期化する中で、解決の糸口すら見いだせないまま苦勞しています。麻帆は谷口誠一とその両親が抱える問題に寄り添い、解決策を求め行動を起こします。

